

【協会企画】失語症者向け意思疎通支援者指導者研修会修了者の集い

福岡県言語聴覚士会における 失語症者向け意思疎通支援者養成事業への取り組み



一般社団法人
福岡県言語聴覚士会
会長 佐藤 文保

第20回日本言語聴覚学会 COI開示 発表者名 佐藤 文保 *演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません

当会における取り組みの流れ

年	月	取り組み
H29	10	福岡県の担当者に事業説明
		事業予算案を県に申請
H30	6	公開講演会を開催：『失語症のある方と家族の生活～言語聴覚士の方々にご理解いただきたい現状～』 講師：園田尚美さん
		予算の承認
H30	7	失語症サポート委員会を設置 失語症友の会など（以下、協力団体）を支援しているSTに委員として事業の企画・運営への協力を依頼 県士会のHPと県の広報で募集開始
		9 平成30年度失語症者向け意思疎通支援者養成（講座・コミュニケーション支援実習・外出同行支援実習）を開始 *実習は協力団体に依頼
H31	3	平成30年度失語症者向け意思疎通支援者養成事業を終了

平成30年度福岡県失語症者向け意思疎通支援者養成研修

研修期間：平成30年9月15日～平成31年3月31日

必修科目の講義14時間 講義3日間（9月15日・16日・17日）

必修科目の実習26時間 講義以降実施

募集人数：20名

応募者数：18名（男3名、女15名） *一般8名、ST10名

平均年齢：54.2歳（最年長80歳、最年少25歳）

失語症のある人との会話経験：有17名、無1名（小児対象ST）

修了者数：17名（男3名、女14名）

登録者数：17名（男3名、女14名） *一般8名、ST9名

【次年度以降に支援者養成を開始する士会が求めている情報の一覧】

1. 主管課とのやり取り

- ・事業を実施する意義を理解してもらうにはどうしたらよいか。
- ・予算を通すための資料を作成する（主管課に提出）。どのような資料が必要か。
- ・予算金額と内訳（差し支えなければお教えください）。
- ・予算額が少なかった場合の工夫。

2. 当事者とのやり取り

- ・主管課に事業の意義を理解してもらうためには当事者の協力が必要であるが、そのための工夫や戦略。
- ・当事者団体との関係強化（研修会開催には当事者の協力が不可欠）のための工夫。

3. 支援者養成研修会について

- ・必須40時間のカリキュラムの組み方について（集中型、分散型、講師の負担など）
- ・当事者の協力を得て行う実習科目の進め方について
- ・選択40時間の実施時期などについて
- ・研修会における遅刻や欠席の扱いについて
- ・事故があった場合の責任・補償について

4. 次年度以降の派遣事業について

- ・支援者派遣は市町村事業として行うか、都道府県事業として行うか。
- ・養成研修会修了というだけで派遣をさせるのか（経験の少ない修了者がいるであろう）。
- ・失語症者への対応経験の少ない修了者に対するスキルアップを考えているか。考えている場合はその内容をお教えてください。
- ・事故があった場合の責任・補償について

1. 主管課とのやり取り

・事業を実施する意義を理解してもらうにはどうしたらよいか？

県の担当者からの質問

Q1.失語症の方ってどんな方ですか？

Q2.福岡県にはどれくらい失語症の方がいらっしゃるのですか？

福岡県の失語症者の数（推定）

失語症者の数 全国20万人～50万人

日本の人口1億2700万人

失語症者の数 福岡県8千人～2万人

福岡の人口510万人



県の担当者からの質問

Q1.失語症の方ってどんな方ですか？

Q2.福岡県にはどれくらい失語症の方がいらっしゃるのですか？



失語症リーフレット（県士会作成）

県の担当者からの質問

Q1.失語症の方ってどんな方ですか？

Q2.福岡県にはどれくらい失語症の方がいらっしゃるのですか？

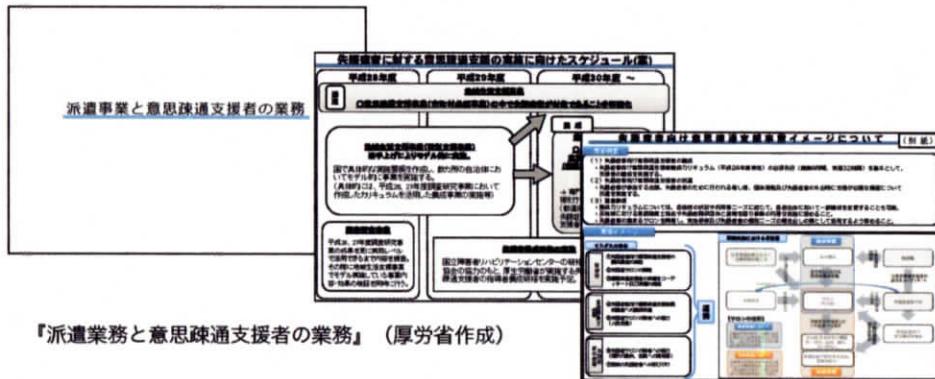
第1表 中区町村別人口(平成22年12月1日現在)											
	人口	高齢人口の割合	失語症の数	門司	戸畠	門司	戸畠	門司	戸畠	門司	
A	A	A		980,350	0.19	1,487 ~	3,711	71,163	0.01	111 ~	279
門 司	97,192	0.02	182 ~	380				25,366	0.01	64 ~	99
戸 畠	89,070	0.02	127 ~	216				40,914	0.01	84 ~	160
門 司	89,221	0.01	41 ~	229				58,375	0.01	41 ~	229
小 倉 北 区	182,040	0.04	285 ~	712				102,946	0.02	160 ~	407
小 倉 東 区	182,040	0.04	338 ~	712				110,946	0.02	173 ~	434
小 倉 西 区	86,850	0.01	106 ~	262				100,499	0.02	157 ~	393
八 郎 堀 区	82,539	0.05	297 ~	562				97,138	0.02	152 ~	390
大 野 城 内 区	1,254,231	0.21	2,446 ~	6,142				72,331	0.01	113 ~	263
大 野 城 外 区	314,251	0.08	482 ~	1,229				56,342	0.01	81 ~	225
大 野 城 中 区	237,494	0.05	372 ~	929				53,324	0.01	87 ~	243
大 野 城 北 区	260,042	0.06	407 ~	1,017				28,784	0.01	46 ~	113
大 野 城 南 区	219,479	0.04	337 ~	873				27,509	0.01	43 ~	108
大 野 城 東 区	311,421	0.03	206 ~	514				37,273	0.01	58 ~	146
大 野 城 西 区	218,963	0.04	343 ~	857				51,047	0.01	80 ~	200
大 野 城 北 区	114,302	0.02	179 ~	447				36,940	0.01	58 ~	140
古 賀 市	58,342	0.01						97,132	0.02	192 ~	483

福岡県の失語症の数（推定）（県士会作成）

県の担当者からの質問

Q1.失語症の方ってどんな方ですか？

Q2.福岡県にはどれくらい失語症の方がいらっしゃるのですか？



『派遣業務と意思疎通支援者の業務』 (厚労省作成)

県の担当者からの質問

Q1.失語症の方ってどんな方ですか？

Q2.福岡県にはどれくらい失語症の方がいらっしゃるのですか？

平成30年度総会時講演会（公開講座）



演題：『失語症のある方と家族の生活』

～言語聴覚士の方々にご理解いただきたい現状～

講師：園田 尚美 先生

特定非営利活動法人

日本失語症協議会事務局長・副理事長



県の担当者からの質問

Q1.失語症の方ってどんな方ですか？

Q2.福岡県にはどれくらい失語症の方がいらっしゃるのですか？



「失語症の人の生活のしづらさに関する調査」 結果報告書

(NPO法人全国失語症友の会連合会作成)

県の担当者からの質問

Q1.失語症の方ってどんな方ですか？

Q2.福岡県にはどれくらい失語症の方がいらっしゃるのですか？



サロンへの見学の促し

実際に見学に来られた！



・予算を出すための資料を作成する（往々課に提出）、どのような資料が必要？

支出計画書の内訳

区分	積算内訳
報償費	講師謝金 実習謝金（協力団体へ）
旅 費	運営委員交通費（会場事前打ち合わせ）
	運営委員交通費（打ち合わせ会議）
	運営委員交通費（講座当日）
	講師宿泊交通費
需用費	運営委員食事代（打ち合わせ会議）
	運営委員食事代（講座当日）
	講師食事代（前日打ち合わせ／講座当日）
	製本代
	消耗品費・雑費（講座当日）
	印刷代（案内チラシなど）
	使用料及び賃借料 会場費及び付属設備使用料

提出書類等

- ◎債権者登録申出書
 - ◎契約補償金の納付（約20万）
 - ◎課税免税事業者届出書
 - ◎契約書
 - ◎見積書
 - ◎仕様書
- 1.委託業務名
2.業務の目的及び概要
3.業務内容
4.研修期間等
5.実施場所
6.実施時期
7.完了報告

・予算金額と内訳は？

140万円予算案

<p>内訳）当選staffは当日の設営や収容確認のほか、2日目はグループワーク等の支援を行なう。 実習に関わる費用：約80万円</p> <table border="1"> <tr> <td>講師謝金：時給6千円×4時間</td><td>¥24,000</td></tr> <tr> <td>実習謝金：2名×1日5千円</td><td>¥10,000</td></tr> <tr> <td>旅費：4名（講師2名+運営staff2名）×5千円</td><td>¥20,000</td></tr> <tr> <td>食事代：4名×5千円</td><td>¥20,000</td></tr> <tr> <td>消耗品・雑費</td><td>¥5,000</td></tr> <tr> <td>会場費・備品代合計</td><td>¥70,000</td></tr> <tr> <td></td><td>¥133,000</td></tr> </table> <p>講義に関わる費用：約40万円</p> <table border="1"> <tr> <td>講師謝金：時給6千円×4時間</td><td>¥24,000</td></tr> <tr> <td>実習謝金：4名×1日5千円</td><td>¥20,000</td></tr> <tr> <td>旅費：4名（講師2名+運営staff2名）×5千円</td><td>¥20,000</td></tr> <tr> <td>食事代：4名×5千円</td><td>¥20,000</td></tr> <tr> <td>消耗品・雑費</td><td>¥5,000</td></tr> <tr> <td>会場費・備品代合計</td><td>¥70,000</td></tr> <tr> <td></td><td>¥150,000</td></tr> </table> <p>3日目</p> <table border="1"> <tr> <td>講師謝金：時給6千円×4時間</td><td>¥24,000</td></tr> <tr> <td>実習謝金：2名×1日5千円</td><td>¥10,000</td></tr> <tr> <td>旅費：4名（講師2名+運営staff2名）×5千円</td><td>¥20,000</td></tr> <tr> <td>食事代：8名×5千円</td><td>¥40,000</td></tr> <tr> <td>消耗品・雑費</td><td>¥5,000</td></tr> <tr> <td>会場費・備品代合計</td><td>¥70,000</td></tr> <tr> <td></td><td>¥183,000</td></tr> </table>	講師謝金：時給6千円×4時間	¥24,000	実習謝金：2名×1日5千円	¥10,000	旅費：4名（講師2名+運営staff2名）×5千円	¥20,000	食事代：4名×5千円	¥20,000	消耗品・雑費	¥5,000	会場費・備品代合計	¥70,000		¥133,000	講師謝金：時給6千円×4時間	¥24,000	実習謝金：4名×1日5千円	¥20,000	旅費：4名（講師2名+運営staff2名）×5千円	¥20,000	食事代：4名×5千円	¥20,000	消耗品・雑費	¥5,000	会場費・備品代合計	¥70,000		¥150,000	講師謝金：時給6千円×4時間	¥24,000	実習謝金：2名×1日5千円	¥10,000	旅費：4名（講師2名+運営staff2名）×5千円	¥20,000	食事代：8名×5千円	¥40,000	消耗品・雑費	¥5,000	会場費・備品代合計	¥70,000		¥183,000	<p>内訳）会場料金（会場可否や会員登録料）</p> <p>会議費等に関わる費用：約20万円</p> <table border="1"> <tr> <td>会場料金（会場可否や会員登録料）</td><td>¥7,200</td></tr> <tr> <td>会員登録料（会員登録料）</td><td>¥120</td></tr> <tr> <td>会議費等（会議料）</td><td>¥197,200</td></tr> <tr> <td>費用合計</td><td>¥1,400,000</td></tr> <tr> <td>(A) + (B) + (C)</td><td></td></tr> </table>	会場料金（会場可否や会員登録料）	¥7,200	会員登録料（会員登録料）	¥120	会議費等（会議料）	¥197,200	費用合計	¥1,400,000	(A) + (B) + (C)	
講師謝金：時給6千円×4時間	¥24,000																																																				
実習謝金：2名×1日5千円	¥10,000																																																				
旅費：4名（講師2名+運営staff2名）×5千円	¥20,000																																																				
食事代：4名×5千円	¥20,000																																																				
消耗品・雑費	¥5,000																																																				
会場費・備品代合計	¥70,000																																																				
	¥133,000																																																				
講師謝金：時給6千円×4時間	¥24,000																																																				
実習謝金：4名×1日5千円	¥20,000																																																				
旅費：4名（講師2名+運営staff2名）×5千円	¥20,000																																																				
食事代：4名×5千円	¥20,000																																																				
消耗品・雑費	¥5,000																																																				
会場費・備品代合計	¥70,000																																																				
	¥150,000																																																				
講師謝金：時給6千円×4時間	¥24,000																																																				
実習謝金：2名×1日5千円	¥10,000																																																				
旅費：4名（講師2名+運営staff2名）×5千円	¥20,000																																																				
食事代：8名×5千円	¥40,000																																																				
消耗品・雑費	¥5,000																																																				
会場費・備品代合計	¥70,000																																																				
	¥183,000																																																				
会場料金（会場可否や会員登録料）	¥7,200																																																				
会員登録料（会員登録料）	¥120																																																				
会議費等（会議料）	¥197,200																																																				
費用合計	¥1,400,000																																																				
(A) + (B) + (C)																																																					

合計約140万円

・予算額が少ない場合の工夫は？

もし予算が下りなかったら…
「県士会の繰越金で運用するしかないのでは…」

実は…

190万円の予算案を申請 ➡ 140万円の予算案へ修正

◎会場費の見直し

➡ 安価な会場へ

◎運営スタッフ（講義を含む）の人数の見直し

5名 ➡ 4名

◎協力者（失語症のある人）への謝礼の見直し

協力者謝金を時給 ➡ 一回につき

◎実習（コミュニケーション支援実習・外出同行支援実習）におけるスタッフ謝金を廃止

*友の会やサロンでの実習であることを考慮

・その他

主旨課とのその他のやりとり

◎選択科目の研修開催について

◎事業についての各市町村への啓発について

◎今後の派遣事業の進め方について

etc

メールや電話でのやり取りと、必要に応じて訪問を行った。
また今後の事業についても常に相談を行なっている。

2. 当事者とのやり取り

- ・主管課に事業の意義を理解してもらうためには当事者の協力が必要であるが、そのための工夫や戦略は？

- ・当事者団体との関係強化（研修会開催には当事者の協力が不可欠）
のための工夫は？

サロンへの見学の促し

主管課の担当者に、まずは友の会活動やサロンを見学してもらい、失語症のある人のことを知ってもらう

- 失語症のある人の症状
 - コミュニケーションの難しさ
 - 支援の必要性
 - 支援者の役割
 - 生活環境 etc



福岡県言語聴覚士会の取組 失語症サポート委員会の設置



失語症友の会ならびに失語症の支援活動を行なっている団体・施設

あゆの会（北九州市芦屋町）	失語症個別パートナー養成あんこ（北九州市）
めの会（北九州市小倉北区）	コスモセラピー（北九州市）
たたらひリハビリテーション病院（福岡市西区）	
はげふみ会（福岡市中央区）	失語症個別パートナー養成あんこ（福岡市）
町田の会（筑紫野市）	町田の会（筑紫野市）
・虹の会（福岡市西区）	リストロロ密室（福吉市）
・西島台リハビリテーション病院（久留米市）	
・細川リハビリテーション病院（柳川市）	

福岡県言語聴覚士会の取組 失語症サポート委員会の設置

事業の説明について

- 協力団体を支援しているST（委員）への説明
 - ・事業説明
 - ・カリキュラムの説明 etc
 - 協力団体への説明
チラシを配布
 - 協力団体への実習協力依頼と依頼書の送付
 - *協力謝金の支払い

実習にご協力をお願いします		
失語症者向け意思疎通支援者による外出同行支援の実習		
実習の目的		
失語症のある人とコミュニケーションにおいて…		
○失語症のある人の心の動きを理解する		
○必要な会話技術をつかう、1対1の会話をできる		
○日常生活における外出場面での底線課題を把握できる		
失語者向け意思疎通支援者による外出同行支援の例		
外出の支援	文部科学省の 利用支援	会員登録での 情報と意見交換支援
外出支援 行動者との コミュニケーション 支援します	利用手続き、 電子「バス運賃証」、 表示板の理解などを 支援します	会員の内情などを 分かりやすく示す 監修情報などは 伝伝えやすいうちに 支援します
同居者との コミュニケーション 支援	公共交通機 関の手続き支援	買物、 娛樂活動などの 利用支援
失語症の方の内情など に同行し コミュニケーション 支援します	銀行、役所、郵便局 などに同行し 利用、手帳などを 支援します	店舗でのやりとり、 商品説明の理解、 施設利用方法の理解 などを支援します
失語症者向け意思疎通支援者の養成、実習に向けた準備を進めています		
開設会社：一社社団法人福岡県精神障害福祉士会　tsaki-tetsu@owaray-hp.jp		

3. 支援者養成研修について



- ・必須40時間のカリキュラムの組み方について
(集中型、分散型、講師の負担など)

講義は集中型、実習は分散型

・当事者の協力を得て行う実習科目の進め方について

自己チェックシート		「コミュニケーション技術手法」
失敗談のある方と会話ををしていただきます。今まで学んだ内容を確認していきましょう。		
◆会話の基本原則を活用しましたか？		
① 子ども扱いしないで会話ができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
② 落ち着いて会話をできる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
③ お互いの表情がわかる位置や場所で話すことができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
◆発問技術と会話技術を活用しましたか？		
① はい・いいえなどができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
② 確認文で確認することができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
③ 要約文で要約することができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
◆出題文を被る会話技術を活用しましたか？		
① 先頭にせず、どちらつづけることができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
② はい・いいえで答える質問に答えることができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
③ 質問文を聞きに、選択肢を準備することができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
◆話の内容を理解する会話技術を活用しましたか？		
① 反対の質問して、会話相手の理解ができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
② 自分自身で明らかに、会話内容の理解ができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
③ 文字や絵などで明らかに会話内容の理解ができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
④ 地図やカレンダーや活用しながら会話内容の理解ができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
◆話の要点を書き記す技術を活用しましたか？		
① 文字で書いて会話を要点を書き記すことができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
② 文字で書いた会話をもとに要点を書き記すことができる	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施
	○できる	△今ひとつ ×難しい ?未実施

コミュニケーション支援実習

実習は協力団体（4ヶ所）の活動と重ねて実施

- ①その日のスケジュールと対象者の説明
 - ②自己チェックシートを実習の前に確認し、実習は協力団体の活動に合わせて進行
 - ③指導者は研修生と失語症のある人と1対1で関われる場を設定
 - ④指導者は全体を把握しながら、研修生を指導・評価する
 - ⑤終了後、自己チェックシートを記入
 - ⑥全体でフィードバックを行う

課題)

- ・指導者が少なく、研修生の指導・評価が不十分
 - ・実習生にフィードバックする十分な時間が取れない

コミュニケーション支援実習

実習は協力団体（4ヶ所）の活動と重ねて実施

- ①その日のスケジュールと対象者の説明
 - ②自己チェックシートを実習の前に確認し、実習は協力団体の活動に合わせて進行
 - ③指導者は実習生と失語症のある人と1対1で関われる場を設定
 - ④指導者は全体を把握しながら、実習生を指導・評価する
 - ⑤終了後、自己チェックシートを記入
 - ⑥全体でフィードバックを行う

課題

- ・指導者が少なく、実習生の指導・評価が不十分
 - ・実習生にフィードバックする十分な時間が取れない

外出同行支援实习

- A. 事前準備・確認シート
(チェックリスト)
 - B. 当日確認シート
 - C. 振り返り自己評価シート
 - D. 実習指導者による
同行支援チェックシート

外出同行支援実習

- A. 事前準備・確認シート
(チェックリスト)
 - B. 当日確認シート
 - C. 振り返り自己評価シート
 - D. 実習指導者による
同行支援チェックシート

外出同行支援实习

- A. 事前準備・確認シート
(チェックリスト)
 - B. 当日確認シート
 - C. 振り返り自己評価シート
 - D. 実習指導者による
同行支援チェックシート

平成20年版 個別取扱説明書(各取扱説明書を複数枚提出する場合)	
B: 当日確認シート	
以下の項目に既付つけながら両行文書を行います。	
会員名	両行文書
()	
1. 総合管理	
1) 会員登録番号を) の 項 を す る	
2. 誤認防止用 ログイン番号	
1) おの の 性質の誤認番号を登録する) 誤認番号 の けを 、 責任者に 6) 両行文書に に し て 、 ログイン番号に 責任者に登録する) パスワードを登録する	
3. 会員登録	
1) おの の 情報に 、 価値を 及ぼす) いい 価値 、 に おけ 、 い、 が) 誤認番号につり、 亂れを 、 かづける) 価値、 乱れを 、 い、 が、 価値なども、 少、 つ する) 4分の1未満で、 本人の運営を おこなう、 在宅勤務も、 在宅勤務も) おの上級、 価値、 の が、 おこなうに ユニバーサルデザインに おこる	
4. 会員登録	
1) おの の 情報に 、 価値を 及ぼす) いい 価値 、 に おけ 、 い、 が) 価値なども、 少、 つ する) 価値なども、 少、 つ する) 4分の1未満で、 本人の運営を おこなう、 在宅勤務も、 在宅勤務も) おの上級、 価値、 の が、 おこなうに ユニバーサルデザインに おこる	
5.	
1) おの の 情報に 、 価値を 及ぼす) いい 価値 、 に おけ 、 い、 が) 価値なども、 少、 つ する) 価値なども、 少、 つ する) 4分の1未満で、 本人の運営を おこなう、 在宅勤務も、 在宅勤務も) おの上級、 価値、 の が、 おこなうに ユニバーサルデザインに おこる	
6.	
1) おの の 情報に 、 価値を 及ぼす) いい 価値 、 に おけ 、 い、 が) 価値なども、 少、 つ する) 価値なども、 少、 つ する) 4分の1未満で、 本人の運営を おこなう、 在宅勤務も、 在宅勤務も) おの上級、 価値、 の が、 おこなうに ユニバーサルデザインに おこる	
7. おの	
1) おの の 情報に 、 価値を 及ぼす) いい 価値 、 に おけ 、 い、 が) 価値なども、 少、 つ する) 価値なども、 少、 つ する) 4分の1未満で、 本人の運営を おこなう、 在宅勤務も、 在宅勤務も) おの上級、 価値、 の が、 おこなうに ユニバーサルデザインに おこる	
8. おの	
1) おの の 情報に 、 価値を 及ぼす) いい 価値 、 に おけ 、 い、 が) 価値なども、 少、 つ する) 価値なども、 少、 つ する) 4分の1未満で、 本人の運営を おこなう、 在宅勤務も、 在宅勤務も) おの上級、 価値、 の が、 おこなうに ユニバーサルデザインに おこる	
9. 守秘義務	
1) おの の 情報に 、 価値を 及ぼす) いい 価値 、 に おけ 、 い、 が) 価値なども、 少、 つ する) 価値なども、 少、 つ する) 4分の1未満で、 本人の運営を おこなう、 在宅勤務も、 在宅勤務も) おの上級、 価値、 の が、 おこなうに ユニバーサルデザインに おこる	

外出同行支援实习

- A. 事前準備・確認シート
(チェックリスト)
 - B. 当日確認シート
 - C. 振り返り自己評価シート
 - D. 実習指導者による
同行支援チェックシート

今年度は…講義・実習とともに分散型（プラス選択科目開始）

○必修科目（講義と実習）
6/1-2、7/6-7開催

○選択科目（講義と実習）
6/2開催

コミュニケーション支援技法Ⅱ
(講義：2時間/8時間中)
コミュニケーション支援実習Ⅱ
(実習：2時間/32時間中)

4時間/40時間中

1日目(6月1日 土曜)	2日目(6月2日 日曜)	3日目(7月6日 土曜)	4日目(7月7日 日曜)
8:30集合 UFCB会員登録 8:30~9:30 フィールドワーク・会場説明	8:30集合 UFCB会員登録 8:30~9:30 フィールドワーク・会場説明	8:30集合 UFCB会員登録 8:30~9:30 フィールドワーク・会場説明	8:30集合 UFCB会員登録 8:30~9:30 フィールドワーク・会場説明
会場 会員登録 9:30～受付 9:30～受付	会場 会員登録 9:30～受付 9:30～受付	会場 会員登録 9:30～受付 9:30～受付	会場 失語症協力者登記 9:30～受付 9:30～受付
失語症研修 (120分)	コミュニケーション 支援実習 (120分)	オリエンテーション 振り返り、及び 講義交換 (60分)	オリエンテーション (60分)
休憩 (45分)	休憩 (60分)	コミュニケーション 支援実習 (60分)	休憩 資料書類 (60分)
休憩 (45分)	休憩 (60分)	コミュニケーション 支援実習 (60分)	休憩 資料書類 (60分)
失語症の導入の 実習実践とニーズ (30分)	コミュニケーション 支援実習 (120分)	コミュニケーション 支援実習 (60分)	失語症協力者登記 開け等手続書 資料書類 (11:00～12:30)
休憩 (45分)	休憩 (60分)	コミュニケーション 支援実習 (60分)	休憩 資料書類 (60分)
失語症研修 (120分)	失語症の導入の 実習実践とニーズ (30分)	失語症の導入の 実習実践とニーズ (30分)	失語症の導入の 実習実践とニーズ (30分)
休憩 (45分)	休憩 (60分)	休憩 資料書類 (60分)	休憩 資料書類 (60分)
失語症研修 (120分)	失語症の導入の 実習実践とニーズ (30分)	失語症の導入の 実習実践とニーズ (30分)	失語症の導入の 実習実践とニーズ (30分)
休憩 (45分)	休憩 (60分)	休憩 資料書類 (60分)	休憩 資料書類 (60分)
休憩 (45分)	休憩 (60分)	休憩 資料書類 (60分)	休憩 資料書類 (60分)
2日目の総括 (～17時)	2日目の総括 (～17時)	2日目の総括 (～17時)	2日目の総括 (～17時)
最終評議 (～17時)	最終評議 (～17時)	最終評議 (～17時)	最終評議 (～17時)
失語症セミナー会員登録 (～14時)			

・研修における遅刻や欠席の扱いについて

選択科目について

○本年度より3～5ヶ年計画で実施予定

(本年度はコミュニケーション技法Ⅱ、実習Ⅱの一部を実施)

○養成研修（必修科目）の期間に同時開催（別会場にて）

○実習（コミュニケーション実習Ⅱ）は、到達目標*に沿った内容を実施できるよう、県士会が企画し実施予定

○必修科目修了者のステップアップを目的に実施

*【選択科目】

養成目標	多様なニーズや場面に応じた石疊通支援を行うために、応用的な知識とコミュニケーション技術を習得するとともに、併発の多い他の障害に関する知識や移動介助技術を身につける
到達目標	電車・バスなどの公共交通機関の利用を伴う外出や、複数の方への支援、個別訪問などの場面を想定し、失語症者の多様なニーズに答え、意思疎通の支援を行えるようになる

平成30年度の方針

○研修の講義は3日連続して受講できる人を募集した。

○講義受講後の実習については、各自で参加可能な日程を調整してもらった。

○予定した日に参加できなくなった場合は、別の日に変更可能（他の協力団体が行う活動日への変更可）。その際は、各自で日程を調整してもらった。

○実習が開催年度中に終了できなかった場合は、次年度の実習で補うことは可能。ただし、意思疎通支援者としての登録は実習終了後とした（修了証は遅れて発行）。

*ちなみに…

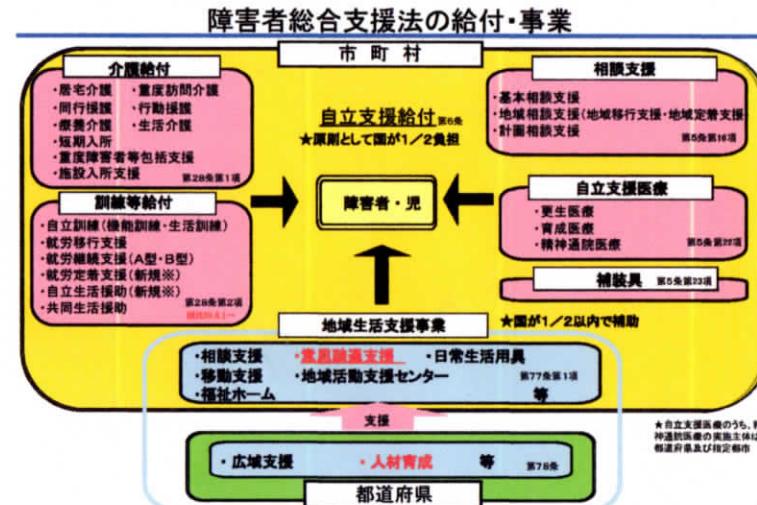
平成30年度の研修講義では、遅刻や欠席者なし

・事故があった場合の責任・補償について

実習希望調査票の作成											
実習希望調査票：実習に参加できる日を教えて下さい 参加可能な日は□をもってください 講習会初日（9/15）に持参してください											
9/15に持参下さい											
コミュニケーション実験時間！											
開催団体（会場）	時間	内訳	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	回数
あんぐ北九州 （北九州市 フルアード）	11:00～15:30	実習会	<input type="checkbox"/> 14日(日) 45時間	<input type="checkbox"/> 11日(日) 45時間	<input type="checkbox"/> 9日(日) 45時間	<input type="checkbox"/> 13日(日) 45時間	<input type="checkbox"/> 10日(日) 45時間	<input type="checkbox"/> 10日(日) 45時間			時間
他の会 （北九州市 リハビリテーション施設）	14:00～16:00	実習会		<input type="checkbox"/> 12日(日) 2時間		<input type="checkbox"/> 12日(日) 2時間			<input type="checkbox"/> 9日(土) 2時間		時間
豊田市立リハビリテーション施設 （豊田市）	10:00～11:00	実習会	<input type="checkbox"/> 4日(日) 2.5時間	<input type="checkbox"/> 15日(日) 2.5時間	<input type="checkbox"/> 6日(日) 2.5時間	<input type="checkbox"/> 7日(日) 2.5時間	<input type="checkbox"/> 7日(日) 2.5時間	<input type="checkbox"/> 10日(日) 2.5時間	<input type="checkbox"/> 14日(日) 2.5時間	<input type="checkbox"/> 14日(日) 2.5時間	時間
			11日(日)	6日(日)	13日(日)	10日(日)	14日(日)				110時間
●ボランティア保険に加入済の方は○を付け、加入されている団体名をお書きください											
ボランティア保険加入済 () [加入団体:] 】											
外出用											
社会福祉協議会実習会場 （北九州市社会福祉総合センター）	8:00～16:00	バスハイク	<input type="checkbox"/> 6日(日) 5時間								時間
他の会 （豊田市 リハビリテーション施設）	9:50～15:00	バスハイク		<input type="checkbox"/> 7日(日) 5時間							時間
大森西サロン （豊田市 リハビリテーション施設）	10:30～14:00	花見					<input type="checkbox"/> 本日の会場 3.5時間				時間
					<input type="checkbox"/> 21日(日) 5時間						時間
											時間
●ボランティア保険に加入済の方は○を付け、加入されている団体名をお書きください											
ボランティア保険加入済 () [加入団体:] 】											

4. 次年度以降の派遣事業について

・支援者派遣は市町村事業として行うか？都道府県事業として行うか？



主管課担当者とのやり取り

「派遣事業は市町村が主体となって行うことを想定」

「市町村担当者会議の際に支援者養成事業が始まっていることを伝達」

- 1) 派遣についてのチラシの配布
 - 2) 失語症のリーフレットの配布
- *段階を踏みながら派遣事業は進めていきたい

「来年度（2019年度）の派遣事業の予算は県としては計上できていない」

「2019年度からの派遣事業は難しい（当然市町村も同様）」

「各市町村事業として進めてもらえるように、県は支援者養成事業について情報を流していく」

・養成研修会終了というだけで派遣をさせるのか？
(経験の少ない修了者がいるであろう)

派遣についての課題

まずは、現よりも先行きプランの検討・検討が必要

■支援者にレベルの差がある

「会としての派遣基準が必要では…（委員の声）」

- 例)
- ・スキルを測るためのテストの実施
 - ・長期（3～5年）の育成プランを作成し、達成基準を設定
 - ・派遣自体にもレベルを設定（「サロンレベル」「個人レベル」など）
⇒ランク分けが必要か？
 - ・活動範囲や体力による基準も必要
⇒時間枠の問題、活動内容の問題

■市町村の対応が難しい

「市町村での派遣体制を整備するには…」

失語症についての啓発

県からの失語症者向け意思疎通支援者養成事業の説明

地域での失語症サロンの設置（派遣需要の拡大）

・失語症者への対応経験の少ない修了者に対する
スキルアップを考えているか？

経験の少ない修了者に対するスキルアップ

- ・支援活動前の目標設定と活動後の振り返りの徹底
- ・必要に応じた支援技術の指導
- ・失語のある人との会話経験を増やす
- ・自己チェックシートの活用
- ・友の会やサロンなどへの定期的な参加の促し

選択科目の実施によるステップアップ

今年度から選択科目を実施して感じたこと

- 選択科目の実習場面において支援者としてのレベルがわかる
- ・状況設定が理解できていない
 - ・理解面、表出面を補う手段を活用しない
 - ・理解面、表出面を補う技術が身についていない など

選択科目は…

- ・支援者としてのレベルを知る機会
- ・支援者としての能力を確認する良い機会
- ・支援者としての質を向上させる良い機会



事故があった場合の責任・補償は？

事故があった場合の…

責任について

⇒県の委託事業とはいえ、県士会としての責任は重い

補償について

⇒研修生にボランティア保険への加入を徹底

県士会としての対策

- 個人情報保護における誓約書の作成
- ボランティア保険への加入を徹底
- 事例をもとに対応マニュアルの作成（検討中）
- 失語症のある人や協力団体からの苦情等の窓口を県士会に設置

経験の少ない修了者に対するスキルアップ

- ・支援活動前の目標設定と活動後の振り返りの徹底
- ・必要に応じた支援技術の指導
- ・失語のある人との会話経験を増やす
- ・自己チェックシートの活用
- ・友の会やサロンなどへの定期的な参加の促し

選択科目の実施によるステップアップ

今年度から選択科目を実施して感じたこと

- 選択科目の実習場面において支援者としてのレベルがわかる
- ・状況設定が理解できていない
 - ・理解面、表出面を補う手段を活用しない
 - ・理解面、表出面を補う技術が身についていない など

選択科目は…

- ・支援者としてのレベルを知る機会
- ・支援者としての能力を確認する良い機会
- ・支援者としての質を向上させる良い機会



事故があった場合の責任・補償は？

事故があった場合の…

責任について

⇒県の委託事業とはいえ、県士会としての責任は重い

補償について

⇒研修生にボランティア保険への加入を徹底

県士会としての対策

- 個人情報保護における誓約書の作成
- ボランティア保険への加入を徹底
- 事例をもとに対応マニュアルの作成（検討中）
- 失語症のある人や協力団体からの苦情等の窓口を県士会に設置